



# 十編七支内

主事院  
九

## 南總里見八大傳第九輯卷之九

東都 曲亭主人編次

第八回 食義成仁を旨とす刑と寛ぐす

第一百回 貞行主よ謁て克を奏す

詰表里見安房守義成寺主神と親お教誨は從ひ只那寛一字を守りて叛賊畠田素藤を攻伐す。敢火速の兵を差せば、多く城を遠隔ふゝぞ憶。日と弥る程。既かく春もあ。二月下旬より。浩然す有一朝。蟹崎十一郎照文。瀧田殿。義実の使。うそ一騎。本陣。來よければ。義成駆て對面。さうすと。竹や木老黨。東六郎辰相と首。小森但一郎高宗。浦安牛助。友勝。田税戸。賀丸郎。逸時。登桐山。八良干。们も皆左右ふぞ侍り。登時蟹崎照文。義実老侯の仰を舒て。義成寺主告まつ。富山の麓河底可。水涸。登涉。自由をゆす。是不。老侯。昨日大山寺へ詣。伏姫の墓を祭。近習練。兩三名を領。那山下。

登りぬ程。素藤が刺客。安西出来介瀬四郎。復五郎。天津九三四郎。荒磯南弥六。椿村  
陸八重と喚做す。安房の舊黨都て五名。山の半腰に埋伏して。両個の伴當を射て仆。既而之  
老侯の危窮に及び。折斜らむ。大吉一人。那大江親兵衛。仁が突然とて樹間に顯れ出先  
途に達て。刺客们を撃ひ伏て。老侯を救ひ。勇力武藝比類るべし。不思議の大功あり。且  
親兵衛は六総以来。伏姫神の眞助より。養せ。富山る。岳窟の内。存り。今茲は。甫の九歳。それども。  
最殊う。たたくま。身長。三尺四五寸。心術も孺子。あらぎ。文学、武藝。學得て。通達せ。ぞとひと見  
神童。又親兵衛。生拘られる。出来。介復五郎。九三四郎。隊六。首伏の事の返並。ま。九三四郎。が  
故主と。や。神餘長。挾介光弘の落胤。上甘理黒。之介。弘世。の。又。姥雪。與四郎。の。妻。音音。二個の  
媳婦。史。單節。も。又是。伏姫神の眞助。より。て。親兵衛と。俱。富山。存す。曳。軍節。は。良人。と。婚  
姻の。折有。身。と。知ら。臨月。遙。過だ。甲。乙。共。男。子。を。安。り。ふ。産。一。則。父の。名。を。そ。修。よ。カ。二  
尺八。と。喚做す。又。那荒磯。南弥六。親兵衛。は。擊。惱。まれて。辛く。逃。と。す。山路。よ。與。四郎。が。生

青海波うち跨りて大山寺を出る及び景能與四郎伴當す又照文御陣へまつて是を等の  
よどゆえわよと仰付られすより馬を親兵衛景能們と共居て走らる大山寺とゆるに真夜半の  
時候ありふ。さてえべふいちや。とげ。まほ。のりひ。つおざう。いこ。  
姥雪與四郎が老人を似ゆき駿馬後れぞと走りて毫も疲勞ざりぬ却照文と景能へ天の明る  
時候來みけり。親兵衛は景能と與四郎を鏑奴と伴若黨と打扮して騎馬の左右を從ひ。館山の城ふ  
赴た照文が注進の為景能が衆捨て馬を他に鏑奴は牽く本陣を来ゆる。瑰奇異聞の趣を首より  
尾まで一事も漏洩を告稟きて義成主のものと左右の侍と辰相们老黨近臣夥々嘆して奇々々  
と稱へう。登時義成主が照文が注進の速りと勞ひて辰相们は宣人を那大江仁のひ我も豫十一  
郎が告ぐるを知りふど。兄の君の神靈の具助のあくまの年來富山の奥生育へも思ひり  
きた異聞ある。今茲九歳の童ふく身長才幹武藝あく。古の賢人勇士より異能。かく奇あるか。恁  
あく天祐神助をゆする俊傑。うんよ。又大功あべ。就中歎が。那山中の一條を昨日嚴君危難の

折。他尚富山を出づ。誰うち先途を達て寇を輒く捉む。おの一事より人力人智の及ばずを  
知る足なり。我ハ二千の士卒を領。三十餘日城を囲みて勞せしのを多く功至り。方僅親兵衛が  
身單みて。ゆき義通をとり復さ。兀自我家の幸ひ。城内に火を賜て暗號を示すもあらず。折  
城入る。快親兵衛は力を戮せん。速莫且。這方より然る氣色を見ひ。事の安危を窺ひ。一  
と名を隊配を定ら。當下士卒ハ大江仁が奇談を初て知り。脛を浅ら且相賀し。勇ざるのみ。  
さてひまひ。ころ。きよま。考。ひだ。よせて。だん。き。ふるま。の。よ。け。考。ち。と。あ。き。う。の。  
徳而あの日亭午の時候。館山の城うち。寄隊の陣へ來ぬ。の。兩三名あり。難兵們訝り咎め  
て。本陣へまつ。他们則陳じ。小可。每。の。月。來。素。藤。駆。へ。立。那城。ゆ。ひ。ト。曳  
瀬の良民。が。大江。ま。吩咐。られて。注進の為。ま。あ。れ。と。ひ。け。り。是。ま。う。東。辰。相。立。ま。あ。す。と。尋  
向ひ。ふ。大江。親兵衛。が。武。勇。み。素。藤。既。ふ。生。拘。ら。れ。て。衆。先。降。參。ま。り。と。親兵衛。則。城。内。軍  
免。よ。あ。ん。ふ。て。弓。の。よ。あ。ん。ち。を。あ。ら。う。と。ま。れ。の。考。ま。も。よ。ま。ん。の。ち。ん。の。軍  
民三百餘名を二隊に分らす。を。百。五。餘。名。ハ。姥。雪。與。四。郎。を。頭。人。と。城。を。伐。ら。す。の。餘。の。都。て。御  
ぎ。う。み。う。き。ぐ。ま。ま。を。と。ご。だ。ご。さ。ぎ。も。ち。ろ。く。と。ふ。ぢ。い。く。く。う。か。の。ひ。う。ひ。う。か。の。ひ。う。ひ。う。か。  
曹司義通君と俱一を。も。す。程。き。御。陣。御。歸。座。あ。べ。勿。論。素。藤。以。下。の。降。人。ハ。牽。ま。く。実

檢と備んと。おの餘の事ハ箇様多と詳と聞え。辰相ハ台脱み堪ざ。且這民们を留置す。  
主君ニヤテ。あづみ義成。主始より天助神祐大さき。親兵衛されば謀ふが如く功する  
事。あも。も。也。と。憑くと思ひ。あらねども。心とて今。胸の休をばつゝ。懲る注進。空手。各  
あ喜び。あすも。わざ。然而辰相は宣命。大江親兵衛不測の功あり。素藤既に生拘られ。義  
通か。來る。我の。這陣ふ在り。そ。賞罰を左も右も。ひひ果て。城入る。余せざれ。義  
親兵衛が大功を掩ま似。非常の與。田税戸賀九郎逸時と。登桐山八良干。五百  
個の士卒を授け。程よし。備を找せ。那城より。皆悉出果。立替り城入て。姥雪與四  
郎を相資す。姑西門を備ら。剛才人の告るを。館山の賊兵们。副門。落ぬる。欽山  
路を投。繋り。繫捕を。動搖を。我推制め。追。繫せ。那城少。今親兵衛  
あり。他。武勇。害。怕。誰。一人。も。落。必。躬方の吉事。思量。單り。果。違。ま。と  
士卒。御示。と。逸時。良干。快々下知を。侍へ。事送。命。辰相。あろ。果。遠く退り。

け。登時。蟹崎照文。義成。身邊。侍り。那里的注進。乍。忻然。と。稟を。既。知せ。あ  
ど。那。大江親兵衛。今。六。稔。前。秋。神殿。一。折。ま。西。も。東。も。あ。知らぬ。絶。四才の小  
児。あり。名将。勇士。及び。大功。あり。數。ね。微臣。が。大法師。と。共。侶。弗。憶く  
侯。郎。君。の。危。難。を。拯。ひ。ま。り。寇。を。生。拘。り。城。を。拔。た。る。お。舉。より。身。の。鈍。り。一。面。を。起。一。面。を。  
と。べ。義成。主。うち。領。だ。寔。は。汝。が。稟。も。で。僅。は。親兵衛。一。人。で。忠。武。大。功。比。類。む。况。ハ。人。具。足  
き。當。家。の。股。肱。ま。り。ん。充。攻。る。免。百。萬。の。勇。兵。と。捷。ゆ。成。る。時。鐵。壁。の。石。城。よ。堅。る。べ。武  
遣。り。雜。兵。と。陣。門。の。掃。除。を。の。そ。ぎ。准。備。を。整。へ。旌。旗。を。建。刀。鎗。を。見。ゆ。本。陣。の。八。面。と。士。卒。と。備。武。と  
赫。炎。と。親。兵。衛。が。降。人。們。と。牽。と。義。通。君。と。俱。と。來。ゆ。と。今。く。と。待。う。け。却。説。這。時。館。山。の。城  
内。や。義。通。君。の。伴。當。の。准。備。整。ひ。と。零。を。な。親。兵。衛。下。知。と。第一。番。と。素。藤。以。下。の。降。人。每。を。先

御陣へ牽べて。城の北門より牛一頭。次ニ義通君の轎子添へ。吉屋景能奉りて。軍民百五十名を從へ。當下大江親兵衛の名馬青海波。うち衆り。殿へ。徐々に來ゆ。約莫事の為体。白布の標幟。両竿。叛賊畠田素藤と寫す。又降伏黨と寫せ。兩個の軍民捧持て。真先を找み。次ニ礪時願八平田張盆作。奥利本膳。浅木碗九郎們。素藤より重用せられ。頭人。ちり。逆徒二十餘名を背ひ。郷縛。居主の民们が追立ゆ。次ニ畠田素藤を太く長す。杉木の杪。郷縛。車を推建。軍民二十名。矢を牽く。杉木の杪。結び下す。四條の麻索を操る者あり。敵を倒す。その與えを中より巾を顱纏ふ。偏祖だる者一名。あり。扇を用ひ。うち招を。聲高や。音頭を操れ。牽兒大家節を合へ。遣材唄を謳ひ。越の國を雪の深山。松木樵り。家路。雪車歌。心の爲も。懲や。あらんと思ふ。可みと訛て俗備。れども。寄隊の耳共。與あ。下。素藤が始む。親兵衛が仁恕を倡へ。大赦を請ひ。倘やと。あらわ。一言。たり。や。そぞれまう。おめく。いまめ。つた。憑て罵り。噪が。果敢免命を惜む故。身の存亡を他不儘。阿容などて郷縛。就そり。す。も。

まう。あ。這時肚裏。思ふ。昔我親へ京師。六月の祇園會の山鉾を親へ。折應聲。夷の病。疴。捕ら。禁獄。せられて。竟。命を。頑。め。ひ。思へ。今へ我え。坐車。推建。容へ。死祇。園會の山鉾。似。山鉾。も。義通を。幾回。欽城樓。登草柱。吊して。謹。忍。之。寄隊。示せ。報へ。き。辛何。せん。却も那へ。百比丘尼。那裏影を。躲へ。我。徳。う。と。知。欲。知。れ。ど。教。術。る。や。初の。か。五れ。よ。ま。か。不。ま。か。す。ま。か。程へ。這那。と。帮助。する。あ。多。う。い。今。あ。折。效。驗。を。方。せ。候。益。る。ろ。た。と。胸。あ。う。み。葛。吹。風。ま。で。憂苦。を。瀕。へ。る。う。け。間。詰。休。題。素藤が。車子の。次。ニ。降。參。の。賊。卒。二。百。五。六十。名。或。五。人。或。十。人。數。珠。の。像。く。繫。れ。あ。も。民。毎。追。立。る。是。あ。千。間。餘。り。と。隔。之。義通の。先。伴。る。軍。民。約。四。十。名。叱咤の。樹。聲。遠。く。空。を。先。を。趕。か。と。嚴。重。て。方。の。餘。百。疊。個。の。軍。民。ハ。轎子。の。後。ハ。田。猪。ア。民。ハ。許。立。て。左。右。ハ。後。ハ。も。見。る。け。り。次。ニ。大。江。親。兵。衛。ハ。初。の。役。ア。礼。服。モ。馬。上。優。歩。せ。る。伴。當。ハ。ヨ。ク。五。六。個。の。軍。を。馬。の。前。後。ヨ。從。え。る。あの。時。館。山。の。城。の。勢。頭。モ。里。見。の。士。卒。五。百。許。名。田。税。戶。賀。九。郎。逸。時。ヨ。登。桐。山。ハ。良。干。們。元。を。領。モ。左。右。ニ。備。モ。守。護。モ。ガ。義。通。君。の。轎子。の。正。門。より。笠。モ。冠。モ。咸。遠。く。跪。坐。モ。



義通小俱く  
大江親兵衛  
賊徒と國守の  
陣営小幸く







旨をあらんぞ。仁へ孰を佳とす。向て親兵衛膝を找め。件の一議。仰る。請あらんと  
思ひ。抑素藤们が忤逆。饒されざる。願ひ我君格另の仁政を施し。他們が頭顱を  
接し。初微臣素藤を生拘り。折約束して。咸立地。降伏せば國主の大赦を請あり。死ぎることを  
え。や。也。と。那奴们甘ト差々。阿容々。皆悉面縛。牽れ外ひを。中より死ぐことを  
惜す。真勇のみ。巴縛。一個の敵を怕れ。かく。至らんや。素藤既に生拘ひて。他們の首を乞  
う。蛇の像く。僅ふ。尾を動せ。今。行ふ。做處を知ら。是小人の本性。畢竟命を惜むの外なし。  
懶れ。今素藤们を饒して。追放する。又何なり。のをせん。非如今咸頭顱を斬梟。とす。  
當家の政事仁義。違ひ。武德衰へ。かく。奸民必武。を接。叛く。の。ヨリ。願ひ。仁恕の心。  
計ひ。そ。あらまほく。小れ。と。道理を舒く。諫稟。其辰相応。親兵衛。うち對ひ。難を。現和殿の竟  
見を。やく。申。亦人の及ぬ。仁と。名。相應。かく。を。左右。よべ。よく。那唐山。よ。吳と。越の二國の得  
失を憶。那越王勾践。ハ。吳王夫差。が。父の讐。戦ひ。既に。勝利を。ゆく。會。誓。山。住。せ。と。攻。殺。を。詭譎の和

議。と。容れ。命を饒し。荆國へ。還せ。と。勾践。遂に。攻撃。と。夫差を殺し。吳を驅。今。素藤を饒  
ゆ。那。吳越の。得失。と。亦。何ぞ。異。み。寔。仇。養。ふ。が。櫻を開。虎を放。其後。の患ひ免。と。せる。ぞ。  
宋襄の仁微。生の信。を。行。ひ。果。て。美。と。れども。事。益。す。おの。義。を。い。ま。で。忘。れ。失。と。詰。れ。が。親  
兵衛。含笑。や。り。と。趣。を。理。あ。り。但。素藤。の。勾践。と。同日。の。論。を。あ。せ。且。越王勾践。ハ。吳王夫差。が。父。の。讐  
を。あ。わ。か。る。と。謀。臣。わ。ア。を。素。藤。然。る。智。謀。の。臣。と。般。夫。差。が。謀。で。勾。践。を。饒。も。と。西。施。を。受。く。潤。を。と  
き。と。饒。せ。ハ。不。孝。と。義。も。亦。違。ひ。と。素。藤。然。る。仇。と。あ。ぞ。只。脚。曹。司。を。辱。や。る。報。ひ。則  
木。ふ。登。し。車。ふ。建。て。陣。門。ふ。曝。一。れ。事。足。と。と。又。勾。践。が。下。の。范。蠡。大。夫。種。と。少。を。る。最。逞。じ  
ぞ。忠。臣。伍。子。延。月。が。諫。を。容。て。佞。人。太。宰。嚭。を。用。ひ。ま。勾。践。其。何。と。う。せ。ん。や。昔。漢。末。の。諸。葛。亮。ハ。南  
秦。國。を。征。伐。せ。と。折。ち。蛮。王。孟。獲。を。セ。ジ。あ。ざ。虜。ふ。と。セ。ジ。兵。を。饒。せ。と。孟。獲。竟。と。感。伏。と。誓。言。で  
余。塵。を。弔。ひ。ひ。宿。老。姑。且。孤。疑。を。禁。め。と。の。義。と。憲。一。も。と。憚。る。氣。色。を。き。論。せ。う。辰。



よべ  
も  
ひそくせう　まへ。ろまを　かとふぢ。むじづ　ひそく  
ちの所因を者へいも。娶らざる。莊客は賜り。且景義は素藤。冤屈の罪を負せられて誅滅  
せられる農民の親族宅眷を召す。余錢を取らる。仁政限もあつて。那身へゆえ。土民们  
みをひきよみ。けい　が　せう　え　ゑ　ちまく　ひち。　ま　ま　ま　ま  
皆悉欽び。慶賀稱讚の聲。街衢は盈り。そが中は生方学も。一理屈ある者へ惜々眉も  
ひそく　ひそく　ひそく　ひそく　ひそく　ひそく  
顰蹙め。守の仁政佳とも。素藤は五逆の罪人へ因て律を按す。大赦を以て。折へとも。五  
ひそく　ひそく　ひそく　ひそく　ひそく  
兵を殺せ。赦す。况那願八盆作。本膳碗九郎など喚做る。兇黨の賊首素藤が虜も  
ひそく　ひそく　ひそく　ひそく　ひそく　ひそく  
あり。害怕れ。猛可は阿容々と降を請ひ。かくも。本膳らも。まくも。まくも  
ひそく　ひそく　ひそく　ひそく　ひそく　ひそく  
あが。然るを一人も誅せざる。追放ちゆひへ。制度法家の旨は違ひ。柔弱は過ぎ。あらざ  
ひそく　ひそく　ひそく　ひそく　ひそく　ひそく  
こらう。まくも。あがく。ねのこ  
虎狼は山は還もべく。思本は根を送り。我恐らく後患ひる。我ハと云ひ。詰たけり。話轢饒舌。却  
てひぬえあんべ多き。うちのうらうと云ふ。ひとわら　スナリ  
説大江親兵衛仁東六郎辰相は素藤们を追放する。次日陣屋を焼き。家を城下の民ふ  
ひそく　ひそく　ひそく　ひそく　ひそく　ひそく  
と。ひそく　ひそく　ひそく　ひそく　ひそく　ひそく  
取らる。第三音の朝幸を領て。俱は館山の城はまわづ。義成兵を傍ひて。親兵衛は寔ふ。當城既に着  
く。あやまつ。まくや。よだり。うぢも。こだ。さざれをもと。うぢ見  
落して。夷瀬は風波起る。あれど。那年代を真里谷。武田をどの餘寇はまづ伏誅せ。景義は貞ら直元。一千の

秀吉。まことに。つるぎ。か。また。まぢ。ちあうと  
幸を授け。討むと遣せ。折々注進あり。まことに全勝の手合せを。懇ね。又當城も。智昌。蕃  
備の者。よも。餘敵を鎮ふとかうべ。因て汝を。這館山の城主と做す。逸時良干。副とせん。與  
四郎も。共に。當城。住りて。宜く計議。與るべ。又那上。甘理黒。之介。神餘光弘の落胤。普善の  
村入们。谷碑。在り。最憐む。ばたかゆれども。その性殊。愈。且廢入る。争何。せん。他。稻村。ねて。あたそ  
る。不計ふ。免ゆ。あく。人の餘のみ。箇様。と。叮寧。示。捷。隨。御。士卒五百名。住。當城を  
成ら。既。あ。凱陣の入馬。を。が。多。程。あの日。堀内藏人貞。ひ。三百餘名の卒。と。俱。生拘。千代丸  
豊俊。と。降。人真里谷信昭。を。領。て。當國廳南。より。凱陣。ら。義成主。見。參。て。鬪戰全勝の趣。を。具。え。そ  
あ。び。よ。り。开。と。い。ふ。ぞ。と。尋。る。初。堀内藏人貞。ひ。と。松倉武者助。直元。一千の兵馬。を。領。て。千代丸。圖書。助  
豊俊。が。盾。筆。り。る。長柄郡。榎本の城。と。攻。り。ま。椎津の城主。真里谷信昭。及。廳南の城主。武田信隆。も。  
年。來。素。藤。豊俊。们。と。交。り。淺。く。ざ。る。せ。り。く。免。れ。ま。と。思。ひ。各。首。の。軍。兵。を。領。て。み。ち。援。兵。と  
あ。木。榎。本。る。城外。二。所。み。じ。ん。掎。角。の。勢。ひ。と。張。り。一。々。貞。ひ。直。元。兵。を。分。り。そ。直。元。城。を。壓。支。貞。ひ。へ

よりやあく。あらうと。まことに。まことに。まことに。まことに。  
真里谷武田の両敵と戰ふ。勝負區々あり。敵を三方受ふ。果敢たるもあらず。憶ゆも  
日を弥る程。春の二月の下瀬より。登時真里谷信昭。獨熟思ふ。我交遊の義より。畢竟と  
矛盾及ぶ。かへ長久の計。あく。意図素藤が今寄隊の大軍。よ。怯ま。城を持固る。初虜。まことと  
至。よみか。やま。そつる。ま。ひさて。おおぞ。ひまよせて。あおぞ。ひまよせて。まよくとも。ちがふと  
空。義通ある故ふ。外。繫。城。あけ。幾。志。欣然。而。重。戦。飯。箭。種。竭。及。必。誅。滅  
せし。よ。折。大。軍。寄。加。兵。へ。す。む。柱。や。我。國。守。の。通。家。千。代。丸。武。田。と。同。ト。ま。義。成。の。亡。母。五。十。子。の。刀  
す。ふ。ま。う。わ。う。れ。ご。よ。む。あ。お。れ。を。き。あ。ふ。と。こ。き。  
自。我。養。父。静。蓮。大。人の。第二。女。覗。き。れ。我。と。他。六。従。母。兄。弟。の。義。き。あ。り。と。今。あ。の。時。友。忠。て。志。を  
あ。く。頭。さ。ぞ。後。悔。脇。を。噛。む。あ。う。ん。嗚。呼。介。す。と。肚。裏。は。主。意。既。よ。決。り。れ。寄。隊。の。陣。へ。箭。書。を。射。禦。  
貞。乃。又。ち。密。意。を。示。え。介。後。武。田。信。隆。ふ。伴。り。て。信。昭。猛。可。持。病。發。り。そ。對。陣。は。堪。ぎ。か。權。且。居  
城。退。將。息。を。べ。よ。ひ。喚。て。を。隊。の。士。卒。と。從。へ。て。夜。紛。せ。退。陣。せ。と。信。隆。敗。れ。毫。も。疑。ふ。心。す。真。里  
谷。在。ら。き。う。と。そ。戰。ひ。る。と。呼。び。士。卒。と。勵。す。も。日。每。貞。乃。と。鋒。頭。を。交。争。ひ。一。有。日。信  
隆。廳。南。の。城。の。殘。兵。が。築。名。逃。れ。來。て。信。隆。報。も。往。日。真。里。谷。信。昭。主。が。そ。隊。の。士。卒。を。從。へ。廳。南。

城又來まつて信隆主の信言あり密談もあれば城の番ま。對面せまくほりまと速みへれよと喚を  
ゆけり。真里谷の三の躬方ゆく且方の大將ゑ。誰う是を疑ふ。隨即城門を推開して城内を迎  
入れよ。真里谷の軍入るといふ。門を發り火を放ち三七三十又殺靡ける。是不慮の攻撃す。城内の士  
卒駭誤矣。駭ひや者勘らむ。素あ躬方ハ小勢モ防禦モ術のよき。又豊俊は副門より脱れ去。  
城を奪れひ。といひ信隆驚呆せ。原来信昭義叛を。我を出一枝を方ひ。義居城を奪られ  
天一日も懸念有かう。今宵悄々地を退却。快廳南立かす。奪略より我城を。復して後まそ。  
又豊俊を極めと。當晚篝火を燒棄。人馬を纏め。退却去ん。却程は貞徳が逆ち。直元と謀合ひ。  
併て武勇の社交見つけ。堀内雜魚太郎貞住と隊を備て。左右ひどく追撃す。息とも難む。攻方は武  
男の一軍乱立。左右を逃難。豊俊迎むるをかく。真里谷が心變りと知らねば。うち驚嚇且性起と目  
今武田を擊た。我も當城と有から。信隆擊を。兵每え。三百の軍兵を魚鱗と備へ城門を推  
ひ。あくちをせいで。あるやミ。また。身み後ふ近臣總五名。まつぬ。今は。坂井家もみけ。便宜の浦み船を徵め。王從辛く命と免。自と歴て  
甲斐國を赴き。那里の國守武田信昌。親族みせ。お隊を屬す。時の至るを俟と。あとは是後の話。豊  
俊は。夜丈杉倉直元の伏兵。最も緊く攻られ。鬪戦難幾及び折。方作城内は火光發り。曲の聲高く  
筆敵を入替りぬと。那道は推建す。中黒の白旗の風を翻り。及早。他に什麼。をう。直駭且悔れ  
ども勢ひ既に窮りて。免めぐれ。向容々と降と請ふ。敵の俘まつ。士卒四零八落。落亡。竟ま落  
城をうり。因て武者助直元。榎本の城と守り。今も。海那里。又。藏人貞徳。武田信隆を趕つ。他  
海船より乗り。脱れ去り。と。守へ。転て廳南。又。榎本の城を守ら。真里谷信昭と伴を。  
相俱くる。社交堀内雜魚太郎貞住。士卒三百餘名を授。廳南の城を守ら。真里谷信昭と伴を。  
又。榎本の城を来。隨即直元と商議。酒家參り。館山を。御陣を注進せ。べれと。転て千代丸豊

隊を城に入替り。一隊を豊俊を遣留す。攻伐と酷急。介程。貞徳。貞住。信隆を食す。稠て攻着多  
様。されば信隆。士卒を。擊す。と。馬と輩と逃走す。貞徳は漏泄す。と。通宵。轟撃す。信隆ハ  
之を。免め。と。身み後ふ。近臣總五名。まつぬ。今は。坂井家もみけ。便宜の浦み船を徵め。王從辛く命と免。自と歴て  
甲斐國を。赴き。那里の國守武田信昌。親族みせ。お隊を。屬す。時の至るを。俟と。あとは。是後の話。豊  
俊は。夜丈杉倉直元の伏兵。最も緊く攻られ。鬪戦難幾及び折。方作城内は火光發り。曲の聲高く  
筆敵を。入替りぬと。那道は。推建す。中黒の白旗の風を。翻り。及早。他に什麼。をう。直駭且悔れ  
ども勢ひ既に窮りて。免めぐれ。向容々と。降と。請ふ。敵の俘まつ。士卒四零八落。落亡。竟ま落  
城をうり。因て武者助直元。榎本の城と守り。今も。海那里。又。藏人貞徳。武田信隆を。趕つ。他  
海船より乗り。脱れ去り。と。守へ。転て廳南。又。榎本の城を守ら。真里谷信昭と伴を。  
相俱くる。社交堀内雜魚太郎貞住。士卒三百餘名を授。廳南の城を守ら。真里谷信昭と伴を。  
又。榎本の城を来。隨即直元と商議。酒家參り。館山を。御陣を注進せ。べれと。転て千代丸豊

俊を檻車のに乘せし。夫役們ふくらひを斥へしし。又信昭を伴ふ。館山たてやまに來めり。義成主の貞行の們が勝軍の頼末のうちうちにて感悦かんえつ凌のぞむ。則真里谷まざとや信昭の對面おもてなす。早はの野心のを罪つみとなす。忽過かく意のを轉ひるがへじて武田信隆の廳南のき。城しろを一時ひとときに攻落こうらくす。忠戰尤賞めいしやうを以もつて。懲めいがめいが功ごととあり。前まへの罪つみを償たまふ足あつま。本領ほんりょうを安堵あんとして參勤懈さんじんけ怠だらそ。鞍置くら馬ば一疋いつばと。大刀おと一足いつを賜たまり。椎津しいづ遷あが一色いろ。信昭の恩おんを仰あおて誓言書ちげんしょを獻ささり。且素藤すとう們のが降伏こうふくの款のうびを演隊兵えんたいへいを領りようて。椎津しいづの永ながく一方かたの杆城くわきとと。竟きのう叛はんく。信昭の事こと。這下これに詫わいす。却說又義成主の貞行の直ただが功ごと譽たたかて。現今番の拵そなへた。裏うら小義通の俱ともに折中せつちゆう途とのから來くわぬ。疎忽しおつの罪つみを償たまふ。藏人くらひハ年老としろう。我わは後あとを稻村いなむらへ凱陣かいじんせよ。武者助ぶしゃすけと難魚太郎なんぎょたろうハ榎本えのほんと廳南の二所ふたの城しろと相あわせて。各城邑ごじゆうと理りのよと公御教書ごきょうしょを齋さいと。使者ししゃ三さんヶ所かに遣しゆ。あ地じ方ほうの民安堵あんと。款のうさるよりまどり。ほりほり一程いちゆう。貞行の大江親兵おほえい衛えいと對面おもてなす。大功だいこうと神女かみめの擁護ようごを越こえ始はじ。知しりて脰くのこを淡うすく感嘆かんたんす。寒さむは我君侯わたくしの洪福こうふくととを稱めいす。

### 第百九回 八百尼山居小敗將と誘引ふ

濱路姫病牀小寃鬼小魘鬼

登時入義成主の親兵衛の宣李の真の里の谷の信昭の反忠鬼の。豊俊降伏のれ。も草武の信隆の。沒落のの宿の。性の方のと知のれ。爲め高枕たかくしと高たかう。睡ねぐもああ。未まが。估かれ。嚮むかの課かせ。汝汝は。這館の城しろ主ぬしと。逸いつ良らう干かんと。共とも居ゐ。守まつ御ごの用心こころ怠だら。汝汝の姫ひめ。真まことが。見みきほほう。矣う。來くわ。充あ。等だ。わ。ん。う。そ。我わ。宣あん。く。慰なぐ。や。當とう郡ぐん。無む事じ。汝汝と。瀧田たきだ。遣けん。み。折祖母おとくぼ。對面おもてなす。今いま姑おの。有あ。事ことの。是これと。汝汝。及およ。少すくな。微び臣ぶん。當とう城しろ。か。留とど。ゆ。れ。て。守まつ御ごの。一條いつじょう。ハ。義ぎ。久く。延の城しろ。未ま做な。れ。ん。が。望のぞ。所ところ。矣う。然しか。也れ。一いつ城しろ。領りよう。ま。せ。の。ひ。京き。相應あいのう。と。赤あか。口くち。且また。首くび。餘の。七しち丈じやう。の。ま。見み。參さん。入い。も。微び臣ぶん。入い。拔ぬき。革かわ。れ。て。僕わく。大だい保ほ。當とう。樂うき。も。の。頤い。が。這な。館の城しろ。主ぬし。の。另ほか。人ひと。擇えら。善よ。徳とく。才才能。隊たい。屬する。





八九傳大車羌九

卷之三

諸臣稻村殿の伴當も許されて観る者ヨリ。然ば伶人、船曲を盡して。僕樂の袂を翻す堪能の吹  
鼓五番あつて果一がば。妙真音音門へ暇あらじて曳き單累即と共侶ふ。力二尺八を携乃て。宿所へ退寄  
可否。恁ても御食饌竭されば。義成主。脚曹司と共に當塗禁止宿あり。そる甲夜の面。義成主。賞罰訓  
け。恁も老候か向すれど。言の叙か。上甘理墨。不弘世の事。ひひ。有つ。傍報。義實、王點頭  
の如。神餘。當塗の舊家。子孫。疑ひ。宜く扶持。めさせ。況廢人。憐む。翁  
翁。天津九郎。西四郎。件の弘葉。孝順。既ふ。孤忠。ゆえあれ。他。亦罪。饑。而。弘葉。隸。仁。又那  
滿呂復。五郎。安西出来。介と喚。做。者。も。眞實。歸降。心。や。が。饑。と。祀。繼。り。又。讐。報。の。德。を。そ。と  
尔。聖教。ふ。稱。せん。又。荒磯。南弥。六。昔。年。當塗。の。俠。者。也。大江。親兵衛。曾祖。也。松木。樸平。と。共。侶。ふ  
謬。て。神。餘。光弘。と。犯。と。刑戮。せ。れる。洲崎。無垢。三。外孫。と。の。志。氣。も。者。と。々。也。他們。も。赦免。あ。ま  
ほ。久。近。日。件。の。罪。人。们。と。稻村。遣。主。有。司。命。じ。と。虚。と。實。を。左。も。右。も。糾。一。極。も。饑。ま。ぐ。饑。の。誅。  
幸。是。老。が。願。ひ。そ。と。叮寧。ふ。宣。ハ。義成。主。謹。て。仰。羨。ひ。反。他們。が。罪。戾。ハ。他。事。を  
幸。優。幸。も。や。ん。あ。是。老。が。願。ひ。そ。と。叮寧。ふ。宣。ハ。義成。主。謹。て。仰。羨。ひ。反。他們。が。罪。戾。ハ。他。事。を

大傳ナ車卷ナ



う。躰て囚りともち無て見れ。故る菅蓑あり。あそ究竟の食覓ふ。と搔食ひて身を引起せ。下ふ一箇の割  
こ。うちわが手をも。も。ひふ。もそ。そん。年めく。すま。へふ。た。を。  
籠あり。食み楊て試る。重きを訝り。開にて。アレハ飯と味噌あり。天の賜慚愧。ともに戴。箸素。立地。啖ひ盡せ。海月の骨。わく心地。と。然をうり。力漏けり。あの時黄昏。さく。昨夜。里見の雜兵。们ふ。  
うち守られ。舟ふ。揺られて。日睡。ませ。あふ。今宵。ひを。枕ふ。就て。疲勞。を。駿。氣。を。養。て。明日。の。便  
ぎ。な。せ。き。や。う。ね。ま。そ。  
宜。を。索。ゆ。世。話。ゆ。果報。ひ。寝。て。あ。と。ひ。こ。あ。と。獨語。て。臥。と。被。く。蓑蟲。の。鬼。の。子。と。山賊。の。親。の。稟  
な。似。而。非。胆。勇。浮宿。の。鳥。の。身。を。做。て。今宵。も。舟。ふ。波枕。所。寓。の。岸。の。定。め。ど。住。め。が。ま。む。世。の。墨。田。河。心  
た。う。の。濁。江。ふ。影。い。宿。と。甲。夜。闇。の。黒。白。の。知。及。高。軒。枕。て。熟。睡。と。あ。す。け。素。よ。り。疲。勞。れ。癖。異。べ  
素。藤。の。宿。轉。も。せ。で。幾。時。飲。睡。り。け。ん。鳥。の。聲。よ。喚。覺。さ。れ。て。忽。然。と。眼。と。開。け。が。あ。き。什麼。那。河。鳥。邊。あ。繫  
き。や。ど。  
舟。と。宿。と。あ。る。ふ。似。ま。も。あ。い。さ。れ。ば。松柏。の。故。あ。枝。を。交。へ。日光。と。掩。ひ。頭。の。上。あ。差。出。れ。が。うち。驚。ひ。そ  
れ。く。身。と。起。り。下。と。え。る。有。つ。舟。の。迹。も。す。く。這。頭。の。正。山。中。曳。深。林。奇。巖。の。外。物。き。く。狐。兔。栖。を  
得。浮。世。ふ。遠。く。幽。冥。不。近。り。ほ。と。思。ひ。難。て。両。手。と。又。き。懷。然。と。鵠。立。と。半。晌。許。人。の。回。す。思。愛。

妙椿の地炕ふ柴を折焼て先素藤ふ茶と萬葉草飯を差しめ。曾侍を聞かず拂はれ。素藤繫心もあらず。又妙椿が云々との比義通す。俘囚がある始より。國守と鬪戦の急体。且大江親兵衛の武勇。城兵敵へ謀り。事の画餅を成りて林を遂れ山の群猿。未桑葉。昇路の雛猫。似る艱苦を云々と告る。妙椿ゆゑき。开ひ宴ひ始より。咱倚り。吴眼通ひ。一事も漏さず。皆知れり。まご曉得ゆゑ。裏裏ふ館山の城内より。諏訪の社頭の巨樹の樺まで。遠く地道を穿ち。見ゆるも咱。幻術を。城の主卒の那輩。迨る。凡夫の眼ふ見せざ。もの故ふ禮の内ふ在り。とえ見る地道の出口。後ふ迹を失ひ。譬へ世ある仙術。須弥を縮めて。眼鼻栗の内ふ容るも皆。這理。うむ。と思ひ。ざら。鈍す。まよ。然が咱。倚り別れ。後も。月來。身の影。立形。添て。幾回と。きく。助け。や。の。よ。お。先。那。大。江。の。神。童。も。孝。烈。壽。ヨ。又。伏。姬。の神靈。が。向。く。時。を。守。れ。あ。無。那。奴。が。未。生。より。感。得。の。靈。玉。あり。鴻。蒙。筆。判。れ。折。天。地。と。共。生。出。る。天津。父。の。弓。瓊。夷。と。役。小。角。が。刻。做。て。最。多。角。數。珠。作。す。も。そ。の。數。識。八。箇。の。大。玉。仁。義。礼。智。忠。信。孝。悌。の。字。を。分。り。そ。あ。づ。く。あ。そ。の。一。字。玉。每。あ。る。者。も。就。中。大。江。が。持。る。德。と。天。地。と。兵。ふ。も。ら。仁。字。の

な入と同列を思ひそと君も。一五十年解説せ。素藤の聞く毎意表ねむる。始て夢の覚ふ。  
ぞ。且感ト且羞。亦ひさうもすう。憶ぎも太息と吻て。現不可思議。女菩薩の妙術。徳。手段あり。  
船。那大江奴を厭勝。まと空きひり。と思へ我身士卒と俱。鉢くも稻ふきらる。亦怪む不足。よかし。  
もくこ。りづく。みだら。まつら。ころ。ど。え。こまく。すべ。  
抑。這里へ就園。女菩薩は。亦哉の時候。よう。這頭不。算。歸。勢。ひ。如く。と。我。帮助。術。あ  
ねが。へ。宣。け。い。も。ま。も。が。き。も。ぐ。き。  
ゑ。願。す。為。ふ。會。誓。恥。と。雪。う。欲。得。ひ。く。と。請。求。れ。妙。椿。然。そ。慰。心。弱。や。慘。れ。ど。我。胸。を  
窟。を。旅。咱。傍。死。身。を。資。ん。思。ひ。い。あ。て。遙。す。這里。誘。引。く。這地。則。上。旅。す。羽。賀。館。山。の。間。  
老。人。不。入。と。喚。做。る。殺。生。禁。断。斧。竹。不。入。の。故。も。あれ。候。ま。る。人。亦。絶。る。太。山。不。住。り。然。ば。昔。より。遠。山。を。會。  
獸。と。獵。る。事。い。ゆ。く。樵。夫。造。炭。翁。草。刈。る。量。入。れ。必。山。神。の。崇。あり。生。て。還。る。稀。き。ら。と。傳。て。犯。き。者。す。  
ふ。と。ま。と。り。よ。そ。よ。と。の。ど。の。へ。こ。え。  
旅客。も。亦。憚。り。て。外。を。過。り。て。這。峯。上。と。うち。踰。て。ゆ。く。と。それ。が。浮。世。と。替。ふ。隱。宅。要。繁。優。る。地方。は。  
を。因。て。咱。脩。へ。軀。身。の。與。不。擇。て。斎。と。締。び。う。志。願。成。就。の。祈。を。ぬ。遠。近。不。散。在。者。士。卒。を。招。を。衰。  
ん。も。亦。咱。脩。の。法。術。不。在。事。の。成。る。ま。で。這。里。あ。在。ね。然。と。そ。光。門。を。過。ま。ん。や。遠。く。を。那。城。と。下。復。生。





果敢々と見ゆたゞめ。金形瘦色蒼にて病苦不堪。見えをあへ給事の女房。日夜枕方後方より。看看病を食とす。然ば死父義成主。うち敬驚せあり。良醫酉と徵て酸酉案と尋ね。又陰陽師。被禊して病鬼を鎮し。或は鬼病。或は物怪。その勘定相似氣。もしまさせる效驗。又母君吾嬬前沙汰とて當國養老寺の境内。洲崎明神及方寺の山脚。役行者の石窟。代参の女房。遣して濱路姫の病着平安の願文。又富山。伏姫墳。墓并。石窟の觀音堂。侍品。使者とて。箕助。折行。程小役行者の石窟。代参する女房。女房が。百二十異人。おひだり。一個の老翁。鬚髮彌真白。眉八字の霜。置る童顔。仙骨凡て。身有麁粧。淨衣。被て。錫杖。衝鳴。最も高足駆。穿て。路傍。鵠立。女房。伴當。俱そ轎子。吊り心。もと。近着來。事件の異人。喫き。幡和女郎们。稻村。洲崎。代参。立。下。女房の家。あん寺。今番濱路姫の病懨。寔少所。鐵釜。茶餅。計畫。又神佛。禱る。輒く。瘡。那物怪。別会。姫の甲斐。圓。在せ。折養家の繼母。淫亂。淫婦。夏叟。即是事件の。

夏叟。密夫。謀。而良人。殺す。極惡の罪。發覚。當時刑戮せられ。這罪障。浮瀬。鬼魄。今中流。在。ある。姫。故御。還。胞姉妹。達。共侶。富貴自在。深窓。下。養れ。夏叟。元。醋く。思ひ。身の惡報。不。モ。姫。お。怨。甚。深。开。鎮。欲。大江親兵衛。館山。召。よ。他。所持。茅仁宇。玉。借り。姫。上の。臥。筆。賣。子。下。深。瘻。兵衛。姫。の。病。床。うち。衛。レ。お。怨。怨。立。地。退散。後。ま。障。尋。病。懨。速。不。平。百集。狂。壽。保。ち。空。御。達。稻。村。か。是。苦。の。う。上。様。守。具。あ。い。よ。倘。疑。感。忌。執。悔。其。里。未。達。お。う。お。う。狹。尊。奈。言。不。應。等。洲。嶺。之。西。秋。思。忽。地。至。不。け。篠。は。奇。特。お。女。房。們。誰。散。驚。畏。是。必。役。行。者。示。現。す。感。淚。找。見。伏。舞。是。當。晚。稻。村。の。城。還。と。躊。先。お。母。君。吾。嬬。前。件。の。奇。異。の。趣。詳。ふ。稟。あ。一。く。吾。嬬。前。敬。驚。之。信。仰。之。浅。打。の。闇。た。う。ね。濱。路。姫。も。憐。と。件。の。よ。告。ま。國。王。あ。少。あ。少。義。成。主。眉。頬。草。む。り。つ。の。ひ。は。と。お。あ。や。豆。そ。昔。年。我。荒。の。心。う。一。時。日。夜。ち。泣。の。を。き。せ。母。刀。自。兒。胸。安。く。が。病。痼。の。所。為。る。心。情。

卷六

卷之三

そう そよとまくえ。うち みちあん せきを みまきをまき 不ら えのまくわり  
悄地ふ洲崎明神へ詣す。ものかすある。よも、塗異人の宗教あり。是則洲崎の洞窟也。役行者化  
けん さるはううとあくのちく。  
現ゆ。吉凶禍福後々。見れ。より。違ひ。と傳ゆる。あれ。這の異人。那行者の示現也。  
と。誣り。氣も婦女。正に照據。まする。敬讐され。親兵衛を徴。濱路の看病也。  
課せん。何とやうん。識者の談論。影護也。危再三思惟。そく左も右もせん。權且せあひね。禁  
やい。ぞ。おひび。吾嬬前。本意。危。一霎時。黙上。ふ。那冤鬼。夜毎。立頭。と紫倍。娘の  
ひづれ。も。  
病着重。母君。堪。快親兵衛を召。守。請。兩三番。及び。浩  
と。うち。あく。あんき。め。む。と。あ。し。  
处ふ瀧田。より。濱路姫の安危。問。老候の使者として。蟹崎士郎。照文が朝鮮人參十莖。と生  
不一。きそ。こと。か。い。る。か。あ。き。  
乾の王残魚。一箱。と。齋と稻村の城へ來。みれば。義成主。對面。と。その恩貺。と。辨。と。兩種。と。濱路姫  
さす。せうつ。さて。こ。ま。む。あ。て。が。  
病牀。遣。一。然而。照文。老候の。恙。氣を。除。び。妙。多。語。次。件。の。異人の教。と。よ。餘。と。言。示。と。あ。  
ぎ。ち。あ。う。  
爰先蹤。ありと。ど。畢竟女子の告訴。氣。我半信半疑。と。一日二日と過。せ。ぐらく。と思。惟。の。異人の  
ま。う。と。  
虛。實。左。あれ。右。あれ。良将勇士の妖怪。と。鎮。する。例。見る。就中。昔。堀河院。物怪。厭鬼。れ。ひ。玉。

南總里見八犬傳第九輯卷之九總

